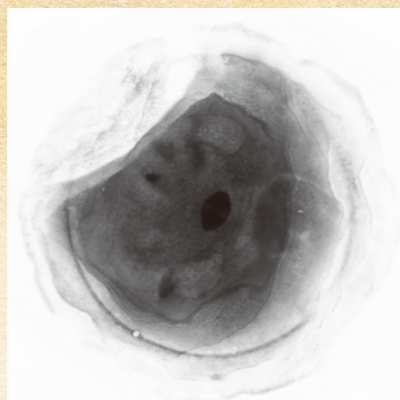


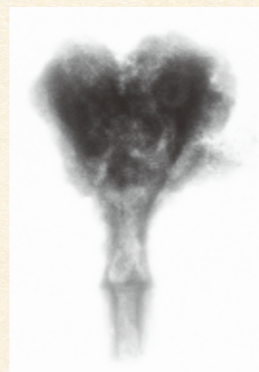
はちりょうきょう
八稜鏡



八稜鏡 X 線写真

平安時代に作られた小型の鏡で、縁が八枚の花びらをかたどっています。映す面の裏（鏡背）には、中央にひもを通すための突起（鈕）があります。文様は不鮮明で、円形に凸線をめぐらしただけの簡素な鏡です。平安時代の住居跡からの出土は県内2例目です。このほか山岳信仰遺跡や墳墓などからの出土があります。（径 7.7 cm）

かりまたぞく
雁股鋏



雁股鋏 X 線写真

かりまた雁股と呼ばれる先端が二つに分かれた鋏です。狩猟では鳥を射るときや獣の足を狙ったと言われていますが、主に合戦の合図や、儀式などで使われていました。

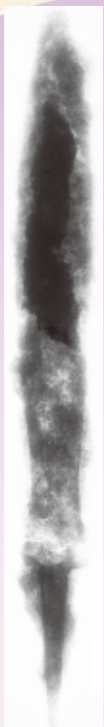


雁股鋏

八稜鏡

第 21 号 竪穴住居跡 遺物出土状況写真

やりさき
槍先



槍先 X 線写真

平安時代の槍先、
竪穴住居跡からはじめて出土！



槍先出土状況

槍先と考えられる両刃の鉄製品です。平安時代の遺跡から槍先が出土することはほとんどなく、全国的に見てもたいへん貴重な発見といえます。（全長 36.5 cm）

令和元年度 第4回 遺跡見学会 令和元年 11月4日（月）

羽生市 川辺に営まれた
古代と中世の暮らしを探る

きた お さき きた

北尾崎北遺跡（第2次）



北尾崎北遺跡は、利根川右岸の自然堤防上に広がる集落遺跡です。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡と中世（室町～戦国時代）の溝跡、墓跡などが見つかりました。

平安時代の住居跡からは、土師器や須恵器、灰釉陶器、金属製品などが出土しました。

中世の遺構は、板石塔婆を伴う集石墓（石を敷き詰めたり積み上げたりした墓跡）や敷地を区画する溝跡、井戸跡などで、遺物は陶磁器類、かわらけ、内耳鍋などが出土しています。

いずれもそれぞれの時代の生活を知るうえで貴重な資料です。

主催

埼玉県教育委員会
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

共催

国土交通省 関東地方整備局 利根川上流河川事務所
羽生市教育委員会

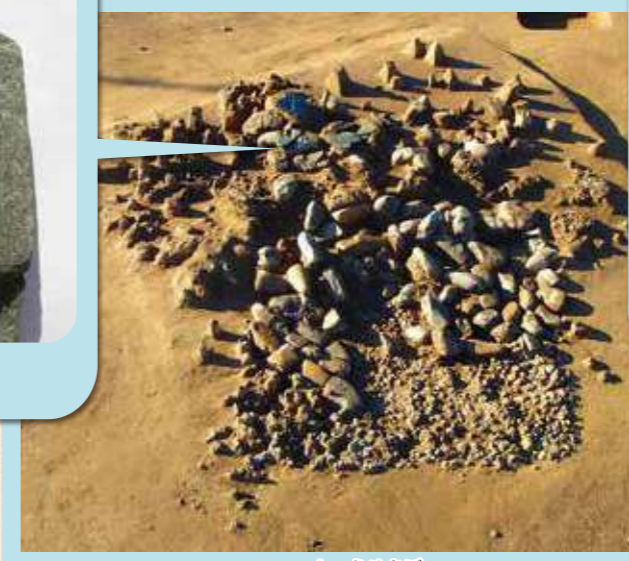


平安時代の竪穴住居跡にはカマドが設けられ、芯に使われた石が残っていました。
 特筆される遺物として、鉄製紡錘車のような生活用品や八稜鏡、槍先なども出土しました。
 中世の集石墓からは板石塔婆が出土した他、火葬骨を納めた蔵骨器が出土しました。
 また直接、穴に埋葬した火葬骨も出土しました。さらに調査区の各所から火葬を行った
 茶毘の跡も見つかりました。そのほかに石組み井戸跡も見つかりました。



いたいしとうば
板石塔婆

板石塔婆の表面には光
 明真言という、密教の呪
 術的な語句が刻まれてい
 ました。



しゅうせきぼ
集石墓



そうこつき
蔵骨器

在地産の甕を蔵骨器として使用しています。

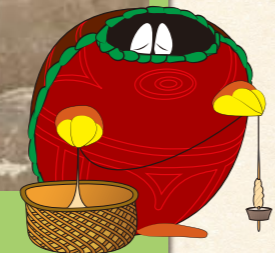


第11号竪穴住居跡

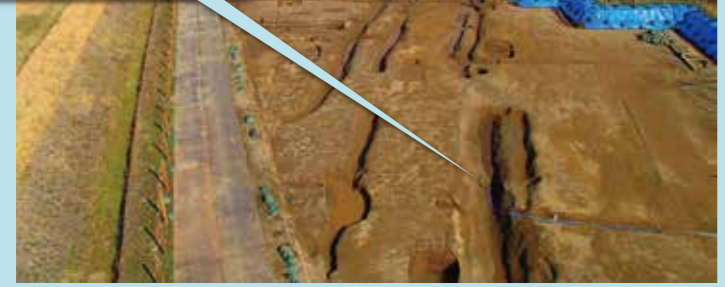


ぼうすいしゃ
紡錘車出土状況

この住居跡からは鉄製の紡錘車
 が出土しました。紡錘車は糸
 を紡ぐ道具です。



馬骨出土状況

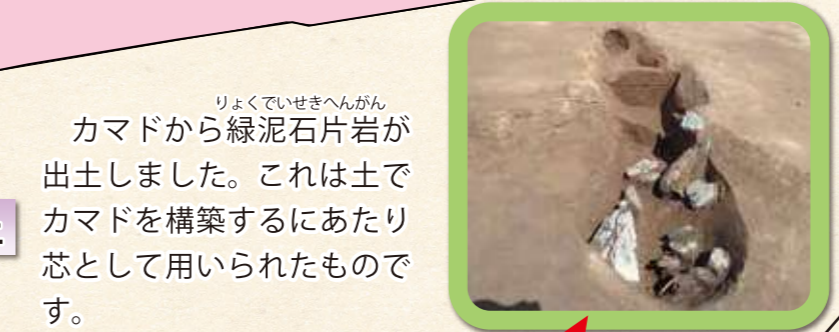


溝跡全景写真



だび
第10号茶毘跡

この穴は火葬の跡です。中央に見える白い破片は人骨です。
 茶毘とは火葬のことで、骨の一部は取り出して墓に埋葬されました。



カマドから緑泥石片岩が
 出土しました。これは土で
 カマドを構築するにあたり
 芯として用いられたもので
 す。



第6号竪穴住居跡



石組み井戸跡

井戸の内側に石が積まれていました。きれいな水を得るためとも、壁が崩落することを防ぐ目的とも考えられています。

